

令和6年度第2回
北九州市上下水道事業検討会

北九州市上下水道事業
中期経営計画 2025 の
進捗管理
(令和5年度決算)

～ 目 次 ～

1	上下水道事業の経営方針	．．．．．	1 ページ
2	令和5年度 事業計画の進捗管理		
	(1) 中期経営計画事業体系図	．．．．．	2 ページ
	(2) 主要事業一覧	．．．．．	4 ページ
	(3) 目標達成状況	．．．．．	9 ページ
3	令和5年度 財政計画の進捗管理		
	(1) 経営状況の概要	．．．．．	20 ページ
	(2) 水道事業	．．．．．	21 ページ
	(3) 水道用水供給事業	．．．．．	23 ページ
	(4) 工業用水道事業	．．．．．	25 ページ
	(5) 下水道事業	．．．．．	27 ページ
4	計画値と実績値の乖離（令和3～5年度）		
	(1) 主な事業	．．．．．	29 ページ
	(2) 財政状況		
	① 水道事業	．．．．．	30 ページ
	② 水道用水供給事業	．．．．．	31 ページ
	③ 工業用水道事業	．．．．．	32 ページ
	④ 下水道事業	．．．．．	33 ページ
5	上下水道局のX方針	．．．．．	34 ページ

1 上下水道事業の経営方針

上下水道局では、令和3年3月に策定した「上下水道事業基本計画2030（計画期間：令和3～12年度）」及び「上下水道事業中期経営計画2025（計画期間：令和3～7年度）」に基づき、着実に事業を推進するとともに、経費節減や増収対策など、経営基盤の強化に努め、お客さまに信頼される上下水道を目指します。また、本市の持つ高い上下水道技術を国内外で活用し、上下水道事業の発展的広域化や国際貢献の推進に取り組めます。

2 事業計画の進捗管理

令和5年度は、

- ① 上下水道施設の強靱化
- ② 環境負荷の低減
- ③ 国内外への貢献
- ④ DXの推進

を主要事業として掲げ、各施策に取り組んできたところである。

次表に、中期経営計画に掲げる事業体系図と当該主要事業との関係を示す。

(1) 中期経営計画事業体系図（令和5年度の主要事業）

将来像	重点 施策	実施事業	主要 事業
	1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる		
	1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新	1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新	①
		1-1-2 上下水道施設の規模の最適化	①
	1-2 豪雨対策の拡充・強化	1-2-1 浸水被害の最小化	①
		1-2-2 上下水道施設の豪雨対策	
	1-3 震災対策の拡充・強化	1-3-1 上下水道施設の耐震化	①
		1-3-2 バックアップ機能の強化	①
	1-4 危機管理体制の充実・強化	1-4-1 事故対応能力の向上	
		1-4-2 民間事業者や他都市等との連携強化	
		1-4-3 停電対策	
		1-4-4 災害時における機能確保の推進	①
		1-4-5 自助・共助の促進に向けたソフト施策の充実	①
	2 いつでも安心して飲める安全な水を届ける		
	2-1 水源を守るための取組	2-1-1 水源林の保全	
		2-1-2 遠賀川の水質保全	
	2-2 取水から蛇口までの水質管理	2-2-1 安全な水対策	
		2-2-2 水源や浄水場を有効に活用した水の供給	
		2-2-3 直結式給水の普及促進や小規模貯水槽水道の管理指導	
		2-2-4 水質管理体制の充実	
	3 環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する		
	3-1 環境負荷に配慮した事業の推進	3-1-1 合流式下水道の改善推進	②
		3-1-2 水質監視強化	②
		3-1-3 再生可能エネルギーの活用	
		3-1-4 省エネルギーの推進	②
		3-1-5 資源の有効利用	②

将来像	重点 施策	実施事業	主要 事業
4 国内外へ貢献していく			
	4-1 上下水道事業の発展的広域化		
	4-1-1 多様な広域連携の推進		③
	4-1-2 外郭団体等との連携強化		③
	4-2 本市の技術力・経験を生かした国際貢献		
	4-2-1 上下水道技術の国際協力		③
	4-2-2 海外水ビジネスの推進・支援		③
5 お客さまが求めるものをかたちにする			
	5-1 お客さまの理解と信頼を得る		
	5-1-1 効果的な広報・広聴活動の推進		
	5-1-2 小学生を対象とした上下水道に関する情報発信		
	5-2 お客さま満足度の向上		
	5-2-1 営業業務の見直し		
	5-2-2 料金の支払や各種手続方法の拡充		
6 培われた高い技術を未来へつなぐ			
	6-1 職員の育成と活用		
	6-1-1 上下水道技術の継承・人材の育成		
	6-1-2 AI等を活用した技術の蓄積・継承の研究		④
	6-1-3 上下水道技術の国際協力（再掲）		③
	6-2 民間事業者等との連携推進		
	6-2-1 民間事業者等との連携推進		
	6-2-2 産学官連携による研究開発の推進		
7 健全な経営を行う			
	7-1 効率的・計画的な事業運営		
	7-1-1 上下水道施設の規模の最適化（再掲）		①
	7-1-2 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新（再掲）		①
	7-1-3 民間事業者等との連携推進（再掲）		
	7-1-4 AIやICTを活用した業務の効率化		④
	7-2 多様な収入の確保		
	7-2-1 資産の有効活用		
	7-2-2 水道・工業用水道利用促進対策		
	7-2-3 多様な広域連携の推進（再掲）		③
	7-3 経営基盤強化に向けた検討		
	7-3-1 料金体系のあり方の検討		
	7-3-2 外部検討会の開催		

(2) 主要事業一覧

1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる

上下水道の強靱化を推進し、災害に強い安全なまちづくりに貢献して、市民生活を守る。

1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新 【13,898,255 千円】

上下水道事業を持続していくため、長期的な視点に立って効率的・計画的な上下水道施設の改築更新を進める。

1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新

- ① 配水管等の更新 6,344,874 千円
配水管更新 (L=32.0km)、導送水管更新 (L=0.8km)
- ② 浄水施設の更新 1,124,370 千円
伊佐座取水場特高受変電設備更新電気計装工事 など
- ③ 工業用水道施設の改築更新 1,059,568 千円
小竹配水池～三井鉱山配水管布設替工事 など
- ④ 下水道施設の改築更新 4,643,267 千円
日明浄化センター特高受変電設備改良 など

1-1-2 上下水道施設の規模の最適化

- ① 配水ブロックの改善 50,610 千円
尾倉、黒川配水池の統廃合 など
- ② 下水道施設の再編 327,910 千円
皇后崎・北湊処理区の再編 など

1-2 豪雨対策の拡充・強化 【1,547,788 千円】

近年、局地化・集中化する豪雨から市民の生活を守るため、効果的に施設整備を進めていく。

1-2-1 浸水被害の最小化 1,463,583 千円

- ・昭和町雨水貯留管築造 など

1-3 震災対策の拡充・強化 【8,203,718 千円】

大規模な地震が発生した場合においても、水道の安全で安定した給水、下水道の最低限の水処理機能を維持するため、防災・減災の観点から、施設の耐震化やバックアップ機能の強化などを図る。

1-3-1 上下水道施設の耐震化

- | | |
|-------------------------|--------------|
| ① 浄水場・配水池の耐震化 | 20,627 千円 |
| 小熊野第一配水池の耐震化工事 など | |
| ② 水道管路の耐震化 | 6,344,874 千円 |
| 配水管等の耐震化 | |
| ③ 浄化センター、ポンプ場の耐震化 | 444,531 千円 |
| 曽根浄化センター耐震補強 など | |
| ④ 下水道管渠の耐震化 | 1,320,676 千円 |
| 日明遮集幹線、東二島北湊主要幹線管渠更生 など | |

1-3-2 バックアップ機能の強化 73,010 千円

- ・井手浦系配水本管整備 L=0.2km など

1-4 危機管理体制の充実・強化 【73,791 千円】

気候変動の影響による自然災害の増加などさまざまな災害リスクに備え、緊急時においても、安定給水、安定処理ができる体制を確保していくとともに、市民の自助や地域による共助、他都市との連携強化など、ソフト施策を組み合わせた総合的な災害対策を強化していく。

1-4-4 災害時における機能確保の推進 31,848 千円

- ・応急給水施設、マンホールトイレの整備 など

1-4-5 自助・共助の促進に向けたソフト施策の充実 41,943 千円

- ・内水浸水想定区域図の拡充、雨水タンク助成事業 など

3 環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する

環境首都北九州市にふさわしい環境負荷に配慮した事業をこれからも実施していく。

3-1 環境負荷に配慮した事業の推進 【2,548,415 千円】

水環境の向上や、資源の有効利用などによる環境負荷低減を推進します。

3-1-1 合流式下水道の改善推進 2,459,953 千円

・日明浄化センター合流改善施設 など

3-1-2 水質監視強化 25,482 千円

・下水処理に影響を及ぼす物質の監視強化

3-1-4 省エネルギーの推進 44,873 千円

・下水施設照明LED化

3-1-5 資源の有効利用 18,107 千円

・下水汚泥の肥料化、水道メーターの再資源化 など

4 国内外へ貢献していく

北九州市の技術を国内外へ提供し、相互発展していく。

4-1 上下水道事業の発展的広域化 【1,128,224 千円】

北九州都市圏域の中核都市として、外郭団体である(株)北九州ウォーターサービスなどと連携しながら、圏域全体に相乗効果が期待できる上下水道事業の発展的広域化に積極的に取り組むとともに、広域連携を通じて、本市職員の技術の継承や実務能力の向上も図る。

4-1-1 多様な広域連携の推進 2,090 千円

・水道広域セミナー開催 など

4-1-2 外郭団体等との連携強化 1,126,134 千円

・外郭団体との連携による宗像地区水道施設維持管理等業務委託

4-2 本市の技術力・経験を生かした国際貢献 【105,735 千円】

SDGs のゴールの一つである「安全な水とトイレを世界中に」の達成へ向けて、地元企業等と連携しながら、海外水ビジネスを推進・支援していくとともに、国際貢献を進めていく。

4-2-1、4-2-2 海外事業の展開 105,735 千円

・上下水道技術の国際協力、海外水ビジネスの推進・支援 など

6 培われた高い技術を未来へつなぐ

100 年を超える歴史の中で培われた高い技術力を次世代へ継承していく。

6-1 職員の育成と活用 【57,258 千円】

事業運営に必要な技術や知識の保持・向上を図るため、OJT などを活用した技術研修や職員の技術力向上に資する資格取得の支援等を行い、一人ひとりの職員が能力を十分に発揮できる人材育成を目指す。そのほか、AI を活用した技術の蓄積・継承の研究を行う。

6-1-2 AI 等を活用した技術の蓄積・継承の研究 13,277 千円

・AI を活用した水道管の劣化診断
・衛星画像と AI を活用した漏水調査

7 健全な経営を行う

人口の減少が見込まれる状況においても、お客さまへの質の高いサービスを提供しつつ、健全経営を持続させていく。

7-1 効率的・計画的な事業運営 【13,967,228 千円】

水需要の低下に伴い、料金収入の減少が見込まれるなかで、今後も安定的に事業を継続していくため、より一層の経費削減に取り組み、経営基盤の強化を図る。

7-1-4 AI や ICT を活用した業務の効率化

・工事立会受付 Web システムの導入 2,838 千円

(3) 中期経営計画実施事業 目標達成状況

目標達成の評価基準は、下表のとおりとする。

評価	評価内容	評価基準
a	大変良い状況にある (完了事業含む)	成果目標の達成率を基準に、 原則として 100%以上
b	概ね良い状況にある	成果目標の達成率を基準に、 原則として 60%以上
c	概ね良い状況とまでは言えない	成果目標の達成率を基準に、 原則として 40%以上
d	不十分な状況にある	成果目標の達成率を基準に、 原則として 40%未満

【参考】市行政評価の取組結果における事業評価

評価	評価基準
a	成果目標の達成率を基準に、原則として 120%以上
b	成果目標の達成率を基準に、原則として 60%以上
c	成果目標の達成率を基準に、原則として 40%以上
d	成果目標の達成率を基準に、原則として 40%未満

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和5年度 予算	令和5年度 決算		
				項目	目標	目標 年度	単年度の 目標	単年度の 結果	取組内容	達成 状況
上水道事業										
1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる										
1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新										
1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新										
5年間の事業費(計画)				35,524百万円		8,208百万円	R5事業費	8,172百万円		
浄水施設の 長寿命化			5箇所	R7	2箇所着手 (累計3箇所)	2箇所着手 (累計3箇所)	本城浄水場屎水池・排泥池 長寿命化工事他	a		
配水池の長寿命化			9箇所	R7	2箇所実施 (累計6箇所)	0箇所実施 (累計4箇所)	畑第二配水池・椎ノ木配水 池長寿命化工事着手、 花尾配水池劣化診断着手	a		
マッピング システムの 機能強化			一元管理 (6項目)	R7	機能強化 2項目	機能強化 1項目 (累計1項目)	減圧弁管理機能構築、 水管橋管理機能一部構築、 流量計・水圧計管理機能着手	a		
導送水管更新			6.7km	R7	0.7km更新 (累計3.9km)	0.8km更新 (累計2.9km)	導水管更新 0.4km 送水管更新 0.4km	b		
配水管更新			185km	R7	32.4km更新 (累計102.5km)	32.0km更新 (累計94.5km)	配水管更新 32.0km	b		
漏水率			6.0%以下	R7	漏水率 6.4%以下	漏水率 6.3%	漏水調査 2,492km 配水管更新 32.0km	a		
1-1-2 上下水道施設の規模の最適化										
5年間の事業費(計画)				262百万円		66百万円	R5事業費	51百万円		
配水池の統廃合 (尾倉)			尾倉配水池 廃止	R6	0.3km整備 (累計0.3km)	0.3km整備 (累計0.3km)	配水管整備 L=0.3km	a		
配水池の統廃合 (黒川)			工事実施	R7	0.2km整備 (累計0.2km)	0.0km整備 (累計0.0km)	不断水分岐管設置、 配水管整備着手 L=0.2km	b		
水需要予測及び 施設規模の検討			検討内容の中間 取りまとめ	R7	推進	推進	水需要予測・施設規模の 検討	a		
1-2 豪雨対策の拡充・強化										
1-2-2 上下水道施設の豪雨対策										
5年間の事業費(計画)				132百万円		25百万円	R5事業費	9百万円		
豪雨対策施設整備			5箇所	R7	2箇所目 整備継続 (累計1箇所)	2箇所完了 (累計3箇所)	本城浄水場減災・防災工事	a		

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和5年度 予算	令和5年度 決算		
				項目	目標	目標 年度	単年度の 目標	単年度の 結果	取組内容	達成 状況
				1-3 震災対策の拡充・強化						
				1-3-1 上下水道施設の耐震化						
				5年間の事業費(計画) 27,669百万円			5,839百万円	R5事業費 6,366百万円		
				浄水場耐震化率	59.2%	R7	59.2% 〔工事完了の R10で77.5%〕	59.2% 〔工事完了の R10で77.5%〕	本城浄水場の戻水池・排泥池耐震化着手、濃縮槽実施設計着手 等	a
				配水池の耐震化率	60.1%	R7	57.7%	55.7%	小熊野第一配水池耐震化着手 (R5～R6債務)	a
				危険箇所整備	2箇所 (累計10箇所)	R5	1箇所整備 (累計10箇所)	2箇所 (累計11箇所)	配水池法面保護、送水路線整備	a
				基幹管路の耐震適合率	51.6%	R7	51.5%	51.0%	導水管耐震化 0.4km 送水管耐震化 0.4km 配水本管耐震化 2.2km	a
				広域避難地等に 至る配水管の 耐震化	9箇所 (累計26箇所)	R7	2箇所完了 (累計26箇所)	3箇所完了 (累計25箇所)	配水管耐震化工事	a
				1-3-2 バックアップ機能の強化						
				5年間の事業費(計画) 1,303百万円			220百万円	R5事業費 73百万円		
				八重洲分岐 ～城野分岐 送水管2条化	完了 (累計2.4km)	R7	0.1km整備	0.0km整備 (累計0.2km)	実施設計、 送水管整備着手 L=0.1km	c
				井手浦系配水本管 のループ化	完了 (累計1.1km)	R7	0.2km整備	0.2km整備 (累計0.3km)	配水本管整備 L=0.2km	a
				1-4 危機管理体制の充実・強化						
				1-4-1 事故対応能力の向上						
				5年間の事業費(計画) -			-	R5事業費 0百万円		
				模擬事故訓練 (局全体)	1回	毎年	1回	1回	模擬事故訓練実施	a
				模擬事故訓練 (水道部)	2回	毎年	2回	2回	模擬事故訓練実施	a
				危機管理研修 (水道部)	3回	毎年	3回	3回	危機管理研修実施	a
				1-4-2 民間事業者や他都市等との連携強化						
				5年間の事業費(計画) -			-	R5事業費 -		
				日本水道協会九州 地方支部間での 合同防災訓練	1回	毎年	1回	1回	合同防災訓練実施 (九州九都市参加)	a
				日本水道協会九州 地方支部間での 情報伝達訓練	1回	毎年	1回	1回	情報伝達訓練実施 (九州九都市参加)	a
				19大都市間での 情報伝達訓練	1回	毎年	1回	1回	情報伝達訓練実施 (19大都市参加)	a
				1-4-3 停電対策						
				5年間の事業費(計画) 325百万円			128百万円	R5事業費 0百万円		
				非常用発電設備 整備	7箇所 (累計15箇所)	R7	1箇所 整備継続 (累計12箇所)	1箇所 整備継続 (累計12箇所)	山ノ岬ポンプ場非常用発電 設備整備	b

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和5年度 予算	令和5年度 決算		
				項目	目標	目標 年度	単年度の 目標	単年度の 結果	取組内容	達成 状況
				1-4-4 災害時における機能確保の推進						
				5年間の事業費(計画) 176百万円			18百万円	R5事業費	13百万円	
				応急給水施設整備	6箇所	R7	1箇所整備	実施設計	応急給水施設基本設計、 高見配水池応急給水塔施設 整備着手	a
				非常用給水袋備蓄	5万枚維持	毎年	5万枚維持	5万枚維持	使用枚数が少数であったた め新規購入なし	a
				給水車運転資格 取得支援者数	25人	R7	5人 (累計15人)	3人 (累計12人)	平成19年度運転免許制度改 正に伴う準中型免許取得支 援	b
				2 いつでも安心して飲める安全な水を届ける						
				2-1 水源を守るための取組						
				2-1-1 水源林の保全						
				5年間の事業費(計画) 41百万円			6百万円	R5事業費	1百万円	
				市民参加人数	360人以上	毎年	360人以上	29人	水源地域での草刈活動	d
				2-1-2 遠賀川の水質保全						
				5年間の事業費(計画) 48百万円			10百万円	R5事業費	7百万円	
				遠賀川環境保全 活動団体への支援	40団体以上	毎年	40団体以上	34団体	住民団体等による遠賀川流 域の環境保全活動・普及啓 発活動に対する支援	b
				水質保全に向けた 関連協議会への 参加	2団体	毎年	2団体	2団体	遠賀川水系水環境保全・再 生推進協議会及び遠賀川水 系水道事業者連絡協議会に 参加	a
				2-2 取水から蛇口までの水質管理						
				2-2-1 安全な水対策						
				5年間の事業費(計画) 277百万円			37百万円	R5事業費	20百万円	
				水安全計画の レビュー (見直し)	5件	毎年	5件	5件	浄水場毎に定期レビューを 実施	a
				水処理の 調査・研究	1件以上	毎年	1件以上	1件	日本水道協会水道研究発表 会で「揚水貯留型貯水池に おける貯水池水質の変遷」 を発表	a
				2-2-2 水源や浄水場を有効に活用した水の供給						
				5年間の事業費(計画) -			-			
				貯水状況に応じた 東西応援	実施	毎年	実施	実施	貯水状況に応じた東西応援 を実施	a
				2-2-3 直結式給水の普及促進や小規模貯水槽水道の管理指導						
				5年間の事業費(計画) 130百万円			15百万円	R5事業費	24百万円	
				小規模貯水槽水道 の文書指導、直結 式給水のPR	設置者全件 (約3,000件)	毎年	設置者全件 (約3,000件)	設置者全件 (3,062件)	貯水槽水道管理水準向上の ため、設置者(全件)へ 文書指導実施	a

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和5年度 予算	令和5年度 決算		
				項目	目標	目標 年度	単年度の 目標	単年度の 結果	取組内容	達成 状況
				2-2-4 水質管理体制の充実						
				5年間の事業費(計画) 142百万円			27百万円	R5事業費	22百万円	
				水道GLPの 継続認定取得	継続取得	毎年	継続取得	継続取得	分析技術や精度管理の向上 に努め、水道水の信頼性確保	a
				外部精度管理結果 (良好判定) 取得	2項目以上	毎年	2項目以上	2項目	全ての項目において、良好 判定取得	a
				新たな検査項目 の設定、監視	5項目	毎年	1項目	1項目 (ダイオキシン類)	5浄水場浄水で検査を行い、 全て目標値未達	a
				新たな情報 コンテンツの発信	2件	R7	累計2件	0件 (累計2件)	R3に上下水道局キッズサイ トへの水質実験動画(累計2 件)提供済	a
				3 環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する						
				3-1 環境負荷に配慮した事業の推進						
				3-1-3 再生可能エネルギーの活用						
				5年間の事業費(計画) -			-	R5事業費	-	
				再生可能 エネルギー利用率	15%以上	毎年	15%以上	15.0%	既設の水力発電設備・太陽 光発電設備の活用	a
				二酸化炭素 排出量削減 (H17年度比)	2,200t	毎年	2,200t	2,899t	H17年度比	a
				新たな再生可能 エネルギーの 調査・研究	実施	毎年	実施	実施	太陽光発電の活用検討	a
				3-1-4 省エネルギーの推進						
				5年間の事業費(計画) 421百万円			10百万円	R5事業費	0百万円	
				電力使用量	過去5年 平均以下	毎年	過去5年 平均以下	過去5年 平均以下	設備の更新や能力の適正化 を実施	a
				二酸化炭素 排出量削減 (H17年度比)	3,000t/年	R7	2,700t/年	2,600t/年	穴生浄水場送水ポンプ更新 (R7までに3,000t/年削減予 定)	b
				新たな 省エネルギー対策 の調査・研究	実施	毎年	実施	実施	デマンドレスポンスの導入 検討	a
				3-1-5 資源の有効利用						
				5年間の事業費 22百万円			4百万円	R5事業費	2百万円	
				浄水汚泥の有効 利用	100%	毎年	100%	100%	汚泥の有効利用実施	a
				廃棄水道メーター の再資源化	100%	毎年	100%	100%	廃棄水道メーターの再資源 化実施	a
				7 健全な経営を行う						
				7-1 効率的・計画的な事業運営						
				7-1-1 上下水道施設の規模の最適化					1-1-2 再掲	
				7-1-2 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新					1-1-1 再掲	
				7-2 多様な収入の確保						
				7-2-2 水道・工業用水道利用促進対策						
				5年間の事業費(計画) -			0百万円	R5事業費	0百万円	
				水道水の利用促進 にかかるPRの 実施	推進	毎年	推進	推進	大口使用者特割制度の企業 へのPR・安価な料金につい てイベント等でのPRを実施	a

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和5年度 予算	令和5年度 決算		
				項目	目標	目標 年度	単年度の 目標	単年度の 結果	取組内容	達成 状況
工業用水道事業										
				1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる						
				1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新						
				1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新						
				5年間の事業費(計画) 4,217百万円			1,328百万円	R5事業費	1,033百万円	
				浄水施設の 長寿命化	3箇所	R7	2箇所着手	2箇所着手	本城浄水場の排泥池・ 小竹系沈澱池工事着手 等	a
				工業用水道管路 の更新	4.3km	R7	1.8km更新 (累計3.4km)	1.6km更新 (累計3.4km)	送・配水管更新 1.6km	a
				1-3 震災対策の拡充・強化						
				1-3-1 上下水道施設の耐震化			1-1-1 再掲			
				7 健全な経営を行う						
				7-1 効率的・計画的な事業運営						
				7-1-2 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新			1-1-1 再掲			
				7-1-4 AIやICTを活用した業務の効率化						
				5年間の事業費(計画) —			—	R5事業費	—	
				スマート検針 システム運用	開始	R3	R3開始済	R3開始済	—	a
				7-2 多様な収入の確保						
				7-2-2 水道・工業用水道利用促進対策						
				5年間の事業費(計画) —			—	R5事業費	—	
				新規または増量 件数	5件	R7	1件 (累計4件)	5件 (累計8件)	PR活動の実施	a
下水道事業										
				1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる						
				1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新						
				1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新						
				5年間の事業費(計画) 20,834百万円			4,790百万円	R5事業費	3,098百万円	
				浄化センター・ ポンプ場設備の 計画的な 改築・更新	120設備 (24設備/年)	R7	27設備 (累計75設備)	17設備 (累計58設備)	改築・更新実施 (電気・機械設備機器)	b
				下水道管渠の 点検調査	550km (110km/年)	R7	110km (累計319.4km)	110.2km	点検・調査実施 (TVカメラ調査等)	a
				下水道管渠の 改築・更新	115km (23km/年)	R7	23km (累計59.5km)	9.0km	改築・更新実施 (管更生工事等)	c
				1-1-2 上下水道施設の規模の最適化						
				5年間の事業費(計画) 7,992百万円			890百万円	R5事業費	213百万円	
				皇后崎・北湊 処理区の再編	再編完了	R7	工事実施	工事実施	下水道管の新設工事実施	a
				皇后崎浄化 センターの再構築	3系統のうち 1系統の 集約化完了	R7	工事及び 実施設計	工事実施	第二処理場最初沈殿池の水 処理設備の改築工事等実施	a
				中川通ポンプ場 の移転改築	工事着手	R7	実施 (基本設計)	基本設計	基本設計の実施	a
				施設規模と機能 の最適化	新町・日明 処理区の 検討着手	R7	検討業務 (基本設計)	検討業務 (基本設計)	再構築に向けた検討業務 委託(基本設計)実施	a

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和5年度 予算	令和5年度 決算		
				項目	目標	目標 年度	単年度の 目標	単年度の 結果	取組内容	達成 状況
				1-2 豪雨対策の拡充・強化						
				1-2-1 浸水被害の最小化						
				5年間の事業費(計画) 14,320百万円			2,890百万円	R5事業費	1,617百万円	
				重点整備地区 (16地区)の うち9地区の整備	9地区 整備完了	R7	2地区完了 (累計5地区)	2地区完了 (累計5地区)	門司駅前地区・昭和町地区 の整備完了、 長野津田地区等の整備	a
				1-2-2 上下水道施設の豪雨対策						
				5年間の事業費(計画) —			40百万円	R5事業費	17百万円	
				耐水化計画の 策定	完了	R3	R3策定済	R3策定済	—	a
				耐水化計画に 基づく浸水防止 設備の整備	実施	R7	耐水化対策 工事実施	耐水化対策 工事実施	大手町ポンプ場及び楠橋ポ ンプ場の耐水化対策工事実 施(建屋関連対策)	a
				1-3 震災対策の拡充・強化						
				1-3-1 上下水道施設の耐震化						
				5年間の事業費(計画) 11,150百万円			2,027百万円	R5事業費	1,765百万円	
				重要な15ポン プ場の耐震化率	73.3%	R7	53.3%	46.7%	払川ポンプ場、吉志ポン プ場の耐震補強工事実施	b
				重要な管渠の 耐震化率	50.7%	R7	49.2%	48.9%	重要な管渠の耐震化実施	b
				1-4 危機管理体制の充実・強化						
				1-4-1 事故対応能力の向上						
				5年間の事業費(計画) —			—	R5事業費	0百万円	
				模擬事故訓練 (局全体)	1回	毎年	1回	1回	模擬事故訓練実施	a
				模擬事故訓練 (下水道部)	1回	毎年	1回	1回	模擬事故訓練実施	a
				危機管理研修 (下水道部)	1回	毎年	1回	1回	危機管理研修実施	a
				1-4-2 民間事業者や他都市等との連携強化						
				5年間の事業費(計画) —			—	R5事業費	—	
				地元民間事業者 との訓練	1回	毎年	1回	1回	地元民間事業者との訓練 実施 (設計コンサルタント等)	a
				21大都市間情報 連絡訓練	1回	毎年	1回	1回	大都市間情報連絡訓練 実施 (21大都市参加)	a
				被災を想定した 他都市との合同 訓練	1回	毎年	1回	1回	他都市との訓練実施	a
				1-4-4 災害時における機能確保の推進						
				5年間の事業費(計画) 50百万円			10百万円	R5事業費	19百万円	
				マンホールトイレ の整備 (累計)	1箇所/年 (累計11箇所)	R7	1箇所 (累計9箇所)	2箇所 (累計9箇所)	本城公園・大里公園の現地 整備完了	a
				1-4-5 自助・共助の促進に向けたソフト施策の充実						
				5年間の事業費(計画) 125百万円			304百万円	R5事業費	42百万円	
				内水浸水想定 区域図の拡充	完了	R7	実施	実施	内水浸水想定区域図(竹馬 川流域)の作成	a
				出前講演による 周知	2件	毎年	2件	3件	浸水被害軽減のための出前 講演実施	a

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和5年度 予算	令和5年度 決算		
				項目	目標	目標 年度	単年度の 目標	単年度の 結果	取組内容	達成 状況
				3 環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する						
				3-1 環境負荷に配慮した事業の推進						
				3-1-1 合流式下水道の改善推進						
				5年間の事業費(計画) 5,100百万円			1,600百万円	R5事業費 2,425百万円		
				合流改善達成率	100%	R5	100%	100%	分流利化（日明・皇后崎処理区）、簡易処理の高度化（日明・皇后崎浄化センター）	a
				3-1-2 水質監視強化						
				5年間の事業費(計画) 151百万円			33百万円	R5事業費 25百万円		
				浄化センターからの放流水質基準違反件数	0件	毎年	0件	0件	放流水中の有害物質・生活環境項目等の実態把握	a
				工場等への立入検査	対象事業場等の半数(200件超)	毎年	対象事業場等の半数	206件	届出内容や水質管理状況について立入検査実施	a
				工場等への水質検査	対象事業場等について2回以上(500件程度)	毎年	対象事業場等について2回以上(500件程度)	501件	事業場排水の水質検査実施	a
				水質管理講習会実施	1回	毎年	1回	1回	法規制の周知、下水道の適切な利用に関する啓発実施	a
				水質改善の調査・研究	1件	毎年	1件	1件	疑似嫌気好気活性汚泥法での低負荷条件における原生動物等の出現状況	a
				3-1-3 再生可能エネルギーの活用						
				5年間の事業費(計画) -			40百万円	R5事業費 0百万円		
				再生可能エネルギー利用率	3%以上	毎年	3%以上	2.69%	消化ガス・太陽光・風力・小水力発電の活用継続	b
				二酸化炭素排出量削減	535t	毎年	535t	347t	消化ガス・太陽光・風力・小水力発電の活用による二酸化炭素排出量削減	b
				新たな再生可能エネルギーの調査・研究	実施	毎年	実施	実施	新たな再生可能エネルギーの調査・研究の継続	a
				3-1-4 省エネルギーの推進						
				5年間の事業費(計画) 50百万円			28百万円	R5事業費 2百万円		
				ポンプ場照明設備のLED化（累計）	1箇所/年（累計6箇所）	R7	1箇所（累計4箇所）	1箇所（累計4箇所）	浅野町ポンプ場他照明設備のLED化	a
				二酸化炭素排出量削減	25t/年（R2年度比）	R7	16.57t/年（R2年度比） 〔前年度より5t増〕	15.80t/年（R2年度比） 〔前年度より4.44t増〕	照明設備のLED化による二酸化炭素排出量削減	b
				新たな省エネルギー対策の調査・研究	実施	毎年	実施	実施	新たな省エネルギー対策の調査・研究	a
				3-1-5 資源の有効利用						
				5年間の事業費(計画) 3,539百万円			713百万円	R5事業費 711百万円		
				汚泥の有効利用率	100%	毎年	100%	100%	セメント原料化・汚泥燃料化等実施、肥料化に向けた研究実施	a
				3-2 環境負荷低減に向けた研究の推進						
				3-2-1 ウォータープラザ北九州の有効活用						
				5年間の事業費(計画) 22百万円			4百万円	R5事業費 3百万円		
				見学者の受入れ	200人以上	毎年	200人以上	667人	水処理関係企業・団体への施設利用の促進、水処理ニーズに関する情報・人的交流の実施	a

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和5年度 予算	令和5年度 決算		
				項目	目標	目標 年度	単年度の 目標	単年度の 結果	取組内容	達成 状況
			7	健全な経営を行う						
				7-1 効率的・計画的な事業運営						
				7-1-1 上下水道施設の規模の最適化					1-1-2 再掲	
				7-1-2 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新					1-1-1 再掲	
				共通事業						
			4	国内外へ貢献していく						
				4-1 上下水道事業の発展的広域化						
				4-1-1 多様な広域連携の推進						
				5年間の事業費(計画) 74百万円			24百万円	R5事業費	2百万円	
				地区別勉強会、 セミナー開催	1回以上	毎年	1回以上	3回	近隣自治体との勉強会、 セミナーの開催	a
				技術研修の受入れ	7回以上	毎年	7回以上	8回	近隣自治体職員の研修 受入れ	a
				4-1-2 外郭団体等との連携強化						
				5年間の事業費(計画) 5,343百万円			1,225百万円	R5事業費	1,126百万円	
				宗像地区事務組合 水道事業包括業務 の受託	継続	毎年	継続	継続	宗像地区事務組合(宗像 市・福津市)の水道事業包 括業務の受託継続	a
				受託業務の拡大	3件	R7	3件 (累計6件)	3件 (累計6件)	北九州ウォーターサービス との近隣自治体のニーズの 共有、 受注拡大への検討及び年次 計画の検討	a
				4-2 本市の技術力・経験を生かした国際貢献						
				4-2-1 上下水道技術の国際協力						
				5年間の事業費(計画) 232百万円			61百万円	R5事業費	36百万円	
				研修員受入れ	【～R3年度】 380人 【R4年度～】 180人	毎年	100人	164人	海外技術者育成に係る研修 員受入れ	a
				職員派遣	4人	毎年	22人	32人	国際技術協力に係る職員派 遣	a
				4-2-2 海外水ビジネスの推進・支援						
				5年間の事業費(計画) 532百万円			115百万円	R5事業費	70百万円	
				市が関与する ビジネス案件数	6件	毎年	6件	7件	国際技術協力や企業の海外 水ビジネス支援	a
			5	お客さまが求めるものをかたちにする						
				5-1 お客さまの理解と信頼を得る						
				5-1-1 効果的な広報・広聴活動の推進						
				5年間の事業費(計画) 243百万円			39百万円	R5事業費	20百万円	
				広報活動による お客さまの認知度	向上	R7	向上	継続	広報紙の発行、 キッズサイト(Web化した副 読本)の運用、 民間と協働で市制60周年記 念酒を製造	a
				広聴活動による お客さまニーズ の把握	推進	R7	継続	継続	上下水道モニターへのアン ケート調査によるニーズの 把握	a
				5-1-2 小学生を対象とした上下水道に関する情報発信						
				5年間の事業費(計画) 7百万円			1百万円	R5事業費	1百万円	
				出前授業	各区1校	毎年	各区1校	各区1校	市内小学生を対象に体験 型学習を実施	a

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和5年度 予算	令和5年度 決算		
				項目	目標	目標 年度	単年度の 目標	単年度の 結果	取組内容	達成 状況
				5-2 お客さま満足度の向上						
				5-2-1 営業業務の見直し						
				5年間の事業費(計画) —			—	R5事業費	—	
				ICT技術等を活用 した新たな施策の 調査・研究	推進	R7	サービス向上に 関する調査・研 究	口座振替イン ターネット 手続き開始	市長事務部局と共同で「Web 口座振替受付サービス」の 運用中	a
				お客さまサービスの 評価向上	推進	R7	お客さま サービス向上	お客さま サービス向上	お客さまサービス向上の ために委託業務の管理・ 監督実施	a
				5-2-2 料金の支払や各種手続方法の拡充						
				5年間の事業費(計画) 20百万円			1百万円	R5事業費	2百万円	
				料金支払方法の 多様化、拡充	実施	R7	検討	検討	スマートフォン決済取扱機 関の拡充、納付書払いの電 子マネー利用等について検 討	b
				口座振替 インターネット 手続き	開始	R3	R4開始済	R4開始済	—	
				5-2-3 上下水道事業に関するアンケート調査の実施と施策への反映						
				5年間の事業費(計画) 6百万円			0.4百万円	R5事業費	0.3百万円	
				アンケート調査を 踏まえたお客さま ニーズや課題への 的確な対応	実施	R7	調査実施	調査実施	上下水道モニターへの アンケート調査	a
				6 培われた高い技術を未来へつなぐ						
				6-1 職員の育成と活用						
				6-1-1 上下水道技術の継承・人材の育成						
				5年間の事業費(計画) 148百万円			42百万円	R5事業費	20百万円	
				研修時間(延べ)	1万時間 以上	毎年	1万時間 以上	13,282時間	技術継承に取組むためのオ ンライン研修を含む局内研 修や専門機関の研修を幅広 く実施	a
				職員の資格保有	1人平均 2つ以上	毎年	1人平均 2つ以上	2.7つ/人	局内研修等を通じて職員に 資格取得を促進	a
				インターンシップ 受入れ	3件以上	毎年	3件以上	3件	以下のとおりインターン シップを受入れ ・市実施分:4名 ・局実施分(小倉工業):6名 ・局実施分(八幡工業):7名	a
				6-1-2 AI等を活用した技術の蓄積・継承の研究						
				5年間の事業費(計画) 101百万円			29百万円	R5事業費	13百万円	
				AI及びICTなどを 活用した技術の 蓄積・継承の取組	2件以上	R7	2件 (累計)	2件 (累計)	①AIを活用した水道管 劣化診断導入調査 ②衛星とAIを活用した 漏水調査	a
				6-1-3 上下水技術の国際協力					4-2-1 再掲	
				6-2 民間事業者等との連携推進						
				6-2-1 民間事業者等との連携推進						
				5年間の事業費(計画) —			—	R5事業費	—	
				業務の効率化・ 運営体制検討	推進	R7	検討	検討	新たな業務の効率化・運営 体制の見直し項目について 検討	a
				北九州ウォーター サービスや民間 活力の活用	推進	R7	推進	推進	北九州ウォーターサービス や民間事業者の活用に係る 検討	a
				6-2-2 産学官連携による研究開発の推進						
				5年間の事業費(計画) 17百万円			3百万円	R5事業費	3百万円	
				新技術等の調査 研究	1件以上	毎年	1件以上	6件実施	民間企業等による実証実験 の支援	a

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和5年度 予算	令和5年度 決算		
				項目	目標	目標 年度	単年度の 目標	単年度の 結果	取組内容	達成 状況
				7 健全な経営を行う						
				7-1 効率的・計画的な事業運営						
				7-1-3 民間事業者等との連携推進					6-2-1 再掲	
				7-1-4 AIやICTを活用した業務の効率化						
				5年間の事業費(計画) —			71百万円	R5事業費	0百万円	
				効率化の取組件数	5件以上	R7	新規1件 (累計7件)	新規1件 (累計7件)	【新規】 ⑦工事立合受付WEBシステムの導入 【継続】 ①給水装置・排水設備事務の効率化、②工水のスマート検針による効率化、③会議や研修の効率化、④施設運転維持管理の効率化、⑤水道のスマートメーター実証実験、⑥営業業務の効率化	a
				7-2 多様な収入の確保						
				7-2-1 資産の有効活用						
				5年間の収入額(計画) 538百万円			198百万円	R5収入額	118百万円	
				資産の利活用による収入	1億円以上	毎年	1億円以上	約1.2億円	土地貸付等による収入の確保	a
				7-2-3 多様な広域連携の推進					4-1-1 再掲	
				7-3 経営基盤強化に向けた検討						
				7-3-1 料金体系のあり方の検討						
				5年間の事業費(計画) —			—	R5事業費	—	
				料金体系のあり方の検討	実施	R7	実施	実施	直近の実績(R4決算)や予定(R5予算)を踏まえた検討実施	a
				料金に関するアンケート調査	実施	R7	R7実施	R7実施	—	
				7-3-2 外部検討会の開催						
				5年間の事業費(計画) 9百万円			1百万円	R5事業費	0百万円	
				開催	2回	毎年	2回	1回	中期経営計画の進捗の報告(R4決算、R5予算)	a

3 財政計画の進捗管理

(1) 令和5年度決算の経営状況の概要

【水道事業会計】

- 収益的収支は、5.8億円の黒字
- 単年度資金収支は、4.2億円の赤字
(累積資金剰余 41.9億円)
- 企業債残高は、582.2億円

【水道用水供給事業】

- 収益的収支は、0.4億円の黒字
- 単年度資金収支は、0.5億円の黒字
(累積資金剰余 1.5億円)
- 企業債残高は、31.6億円

【工業用水道事業会計】

- 収益的収支は、4.8億円の黒字
- 単年度資金収支は、0.8億円の赤字
(累積資金剰余 18.2億円)
- 企業債残高は、14.3億円

【下水道事業会計】

- 収益的収支は、6.7億円の黒字
- 単年度資金収支は、2.2億円の黒字
(累積資金剰余 36.4億円)
- 企業債残高は、1,391.4億円

(単位：百万円)

	上水道事業					
	水道事業	水道用水 供給事業	小計	工業用 水道事業	下水道 事業	合計
収益的収入	19,533	869	20,402	1,990	26,749	49,141
料金(使用料)収入	15,076	775	15,851	1,747	14,340	31,938
収益的支出	18,957	834	19,791	1,509	26,084	47,384
収支差引	576	35	611	482	665	1,758
資本的収入	3,711	15	3,726	249	13,112	17,087
資本的支出	12,732	220	12,952	1,365	23,191	37,508
収支差引	▲9,022	▲205	▲9,227	▲1,116	▲10,078	▲20,421
補填財源	8,601	258	8,859	1,033	10,297	20,189
単年度資金収支	▲421	53	▲368	▲83	219	▲232
計画	▲947	71	▲876	▲308	92	▲1,092
計画比(決算－計画)	526	▲18	508	225	127	860
累積資金剰余	4,189	145	4,334	1,817	3,635	9,786
計画	3,226	148	3,374	1,607	2,742	7,723
計画比(決算－計画)	963	▲3	960	210	893	2,063
企業債残高	58,221	3,155	61,376	1,426	139,139	201,941
計画	59,380	3,140	62,520	1,808	141,717	206,045
計画比(決算－計画)	▲1,159	15	▲1,144	▲382	▲2,578	▲4,104

※表中の数字は四捨五入による端数調整をしていないため、内訳と合計などは必ずしも一致しない。

(2) 水道事業

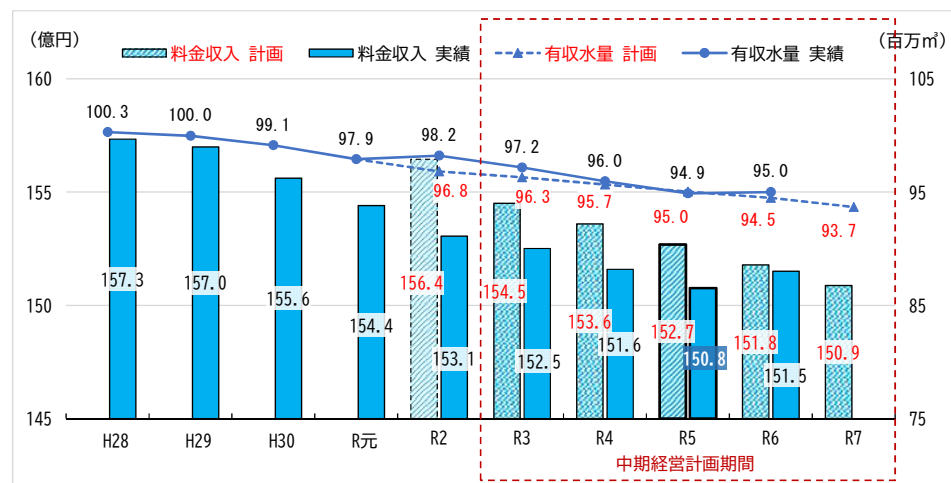
① 総括表

(単位：百万円)

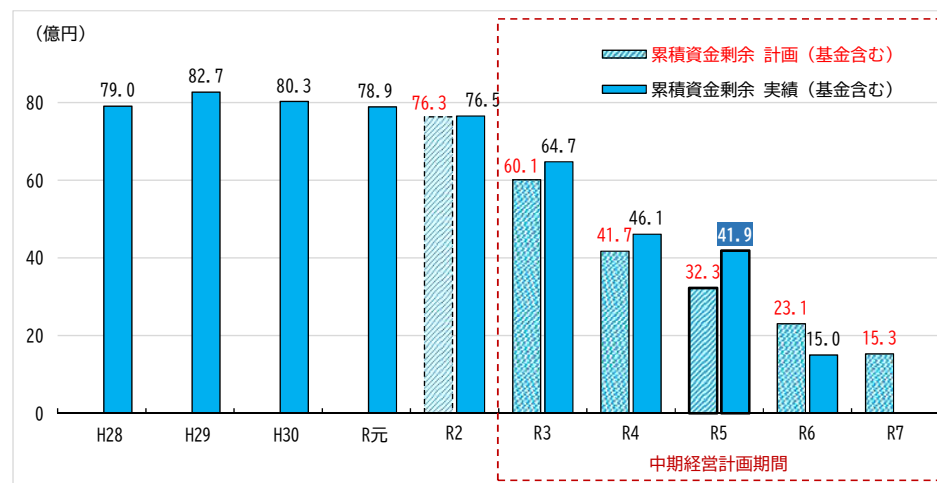
年度		R3	R4	R5					
項目		決算	決算	計画	予算	決算	前年度比	計画比	予算比
		(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(e)-(b)	(e)-(c)	(e)-(d)
収益的収支	収益的收入 ①	19,516	19,464	19,851	20,085	19,533	69	▲ 318	▲ 552
	料金収入 (原水除く)	15,251	15,159	15,269	15,301	15,076	▲ 83	▲ 193	▲ 225
	口径別納付金	378	395	451	409	454	59	3	45
	その他	3,887	3,909	4,131	4,375	4,003	94	▲ 128	▲ 372
	収益的支出 ②	18,258	19,012	19,428	20,457	18,957	▲ 55	▲ 471	▲ 1,500
	人件費	2,215	2,363	2,700	2,558	2,346	▲ 17	▲ 354	▲ 212
	維持管理費	2,969	3,073	3,173	3,339	3,164	91	▲ 9	▲ 175
	減価償却費等	8,408	8,445	8,248	8,656	8,562	117	314	▲ 94
	企業債利息	741	691	731	707	655	▲ 36	▲ 76	▲ 52
	その他	3,925	4,440	4,577	5,197	4,230	▲ 210	▲ 347	▲ 967
	収支差引 ③=①-②	1,258	451	423	▲ 372	576	125	153	948
資本的収支	資本的收入 ④	4,670	4,222	4,072	5,317	3,711	▲ 511	▲ 361	▲ 1,606
	企業債	3,400	3,012	3,270	4,347	3,424	412	154	▲ 923
	その他	1,270	1,211	802	970	287	▲ 924	▲ 515	▲ 683
	資本的支出 ⑤	12,097	12,236	12,763	14,048	12,732	496	▲ 31	▲ 1,316
	整備費	7,755	7,901	8,047	9,025	8,421	520	374	▲ 604
	企業債償還金	3,394	3,351	3,264	3,306	3,301	▲ 50	37	▲ 5
	その他	947	984	1,452	1,717	1,010	26	▲ 442	▲ 707
収支差引 ⑥=④-⑤		▲ 7,427	▲ 8,014	▲ 8,691	▲ 8,731	▲ 9,022	▲ 1,008	▲ 331	▲ 291
補填財源 ⑦		7,250	7,140	7,744	7,011	8,601	1,461	857	1,590
単年度資金収支 ⑧=⑥+⑦		▲ 177	▲ 874	▲ 947	▲ 1,721	▲ 421	453	526	1,300
累積資金剰余		5,484	4,610	3,226	2,889	4,189	▲ 421	963	1,300
企業債残高		58,437	58,099	59,380	61,648	58,221	122	▲ 1,159	▲ 3,427

② 推移表（実績のうち、H28～R5は決算額を、R6は予算額を示す）

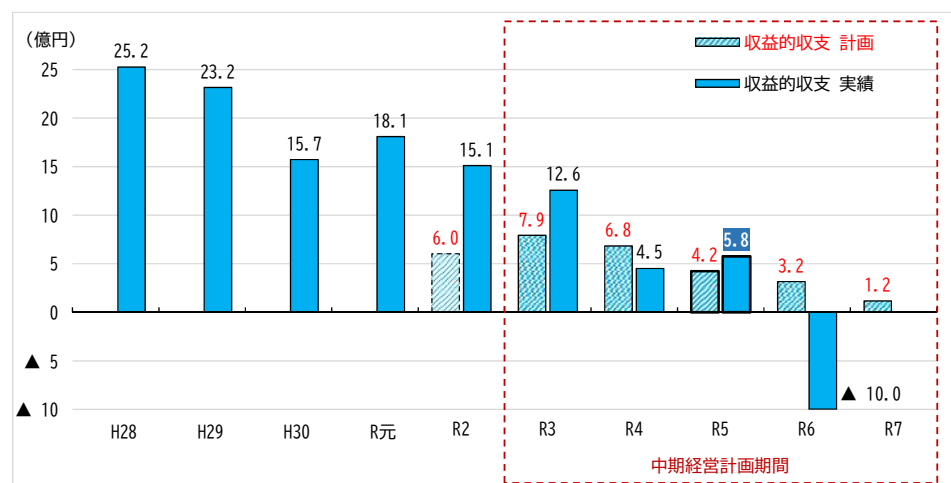
【料金収入・有収水量の推移】



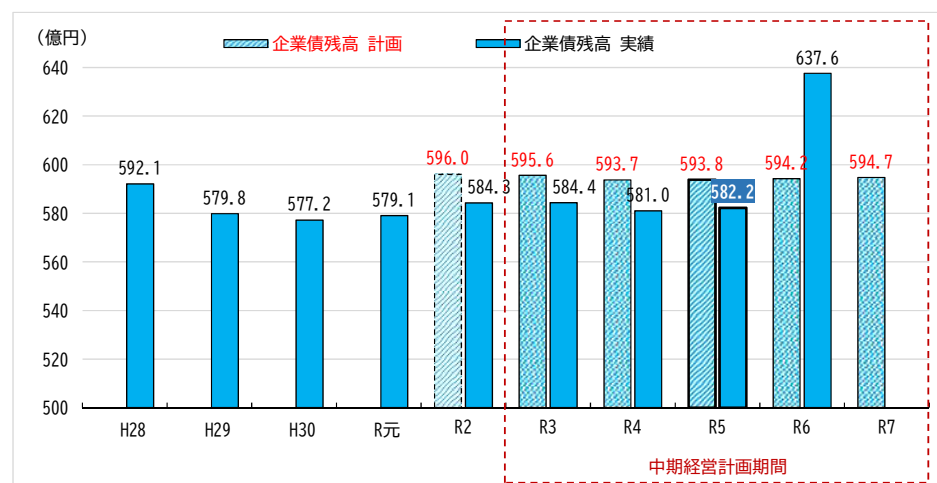
【累積資金剰余の推移】



【収益的収支の推移】



【企業債残高の推移】



③ 総論

料金収入は計画値と比べて減少したが、人件費や一般管理費も同様であったため、収益的収支は計画値を上回った。

整備費が計画値に比べて増加したが、減価償却費や資産減耗費等で構成する補填財源も同様であったため、累積資金剰余は計画値を上回った。

令和4年度末時点で企業債残高が計画値を下回っていたため、令和5年度の企業債発行額は増加したが、同年度末の企業債残高は計画値を下回った。

(3) 水道用水供給事業

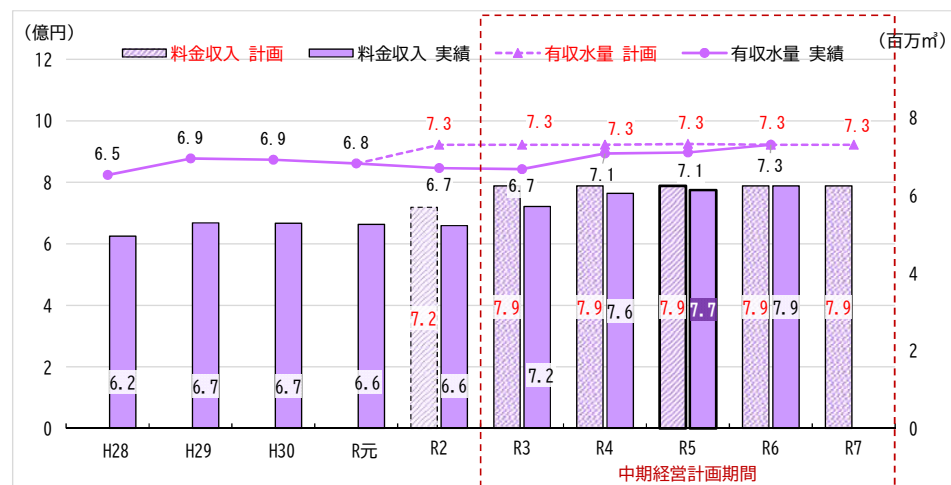
① 総括表

(単位：百万円)

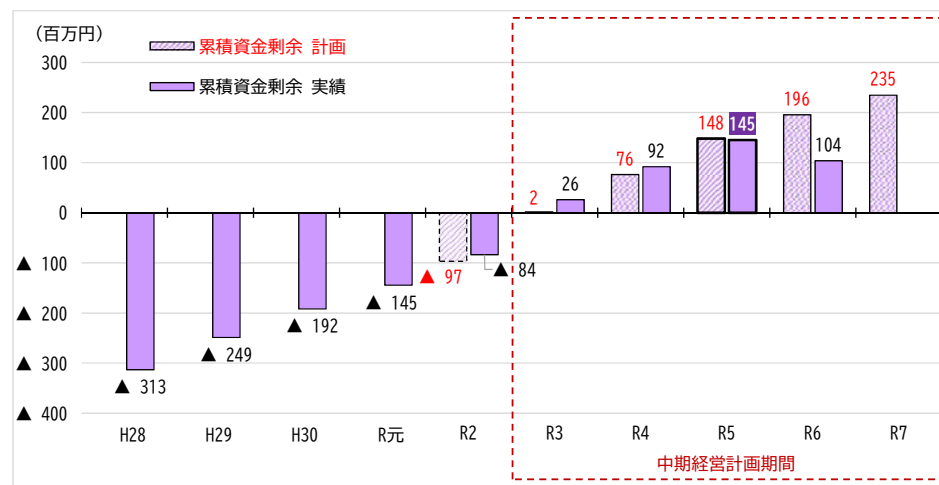
年度		R3	R4	R5					
項目		決算 (a)	決算 (b)	計画 (c)	予算 (d)	決算 (e)	前年度比 (e)-(b)	計画比 (e)-(c)	予算比 (e)-(d)
収益的収支	収益的收入 ①	817	863	905	906	869	6	▲ 36	▲ 37
	料金収入	721	764	788	791	775	11	▲ 13	▲ 16
	その他	96	99	117	115	94	▲ 5	▲ 23	▲ 21
	収益の支出 ②	740	791	827	899	834	43	7	▲ 65
	人件費	44	45	62	57	81	36	19	24
	維持管理費	174	185	221	208	206	21	▲ 15	▲ 2
	減価償却費等	311	304	309	306	305	1	▲ 4	▲ 1
	企業債利息	72	69	66	66	65	▲ 4	▲ 1	▲ 1
	その他	139	188	169	263	177	▲ 11	8	▲ 86
	収支差引 ③=①-②	77	72	78	7	35	▲ 37	▲ 43	28
資本的収支	資本的收入 ④	0	0	20	87	15	15	▲ 5	▲ 72
	資本的支出 ⑤	184	197	246	318	220	23	▲ 26	▲ 98
	整備費	5	15	39	67	34	19	▲ 5	▲ 33
	企業債償還金	179	183	186	187	186	3	0	▲ 1
	その他	0	0	20	64	0	0	▲ 20	▲ 64
	収支差引 ⑥=④-⑤	▲ 184	▲ 197	▲ 226	▲ 231	▲ 205	▲ 8	21	26
補填財源 ⑦		294	263	297	222	258	▲ 5	▲ 39	36
単年度資金収支 ⑧=⑥+⑦		110	66	71	▲ 9	53	▲ 13	▲ 18	62
累積資金剰余		26	92	148	83	145	53	▲ 3	62
企業債残高		3,509	3,327	3,140	3,163	3,155	▲ 172	15	▲ 8

② 推移表（実績のうち、H28～R5は決算額を、R6は予算額を示す）

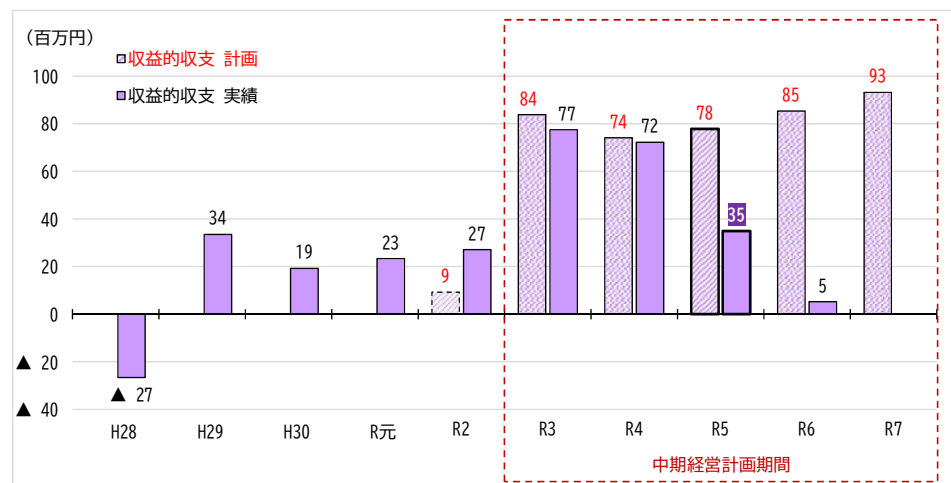
【料金収入・有収水量の推移】



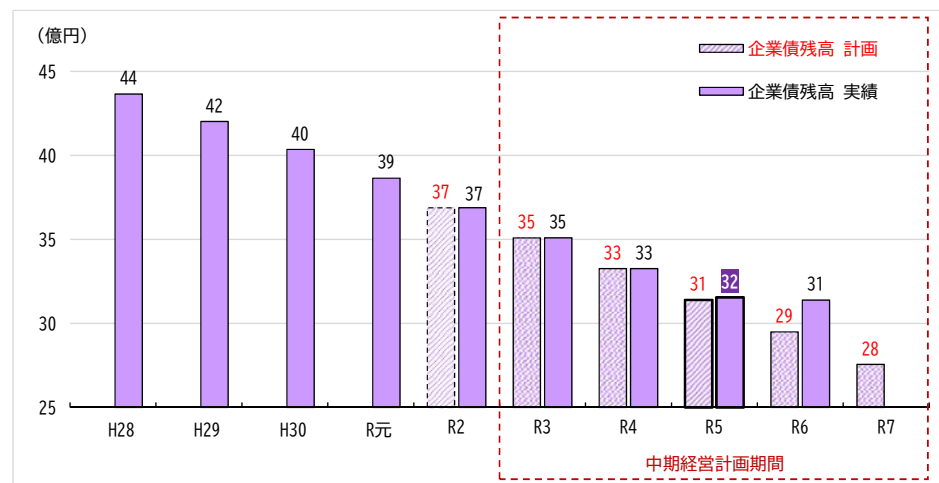
【累積資金剰余の推移】



【収益的収支の推移】



【企業債残高の推移】



③ 総論

料金収入は計画値と比べて減少し、また、浄化費用が増加したため、収益的収支は計画値を下回った。

資本的収支は計画値と比べて同程度であるが、収益的収支が減少したため、累積資金剰余は令和4年度末時点で計画値を上回っていたが、令和5年度末時点では同程度となった。

企業債の発行及び償還を概ね計画通りに行ったため、企業債残高は計画値と同程度となった。

(4) 工業用水道事業

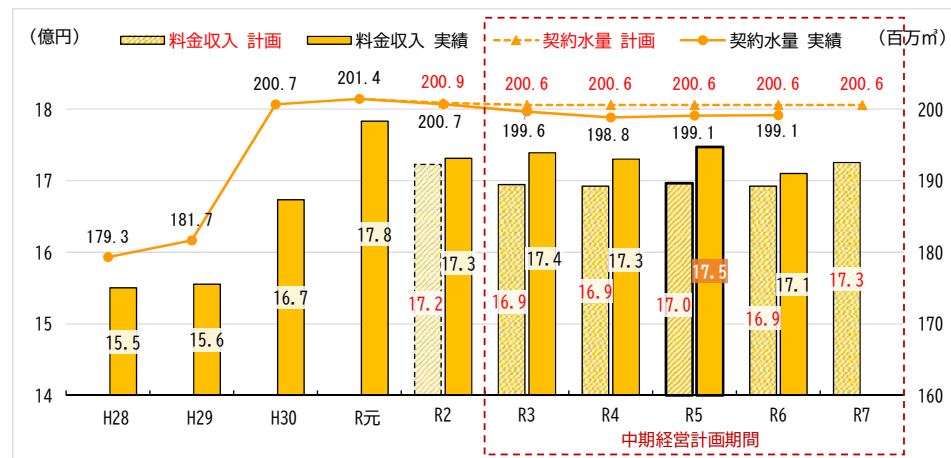
① 総括表

(単位：百万円)

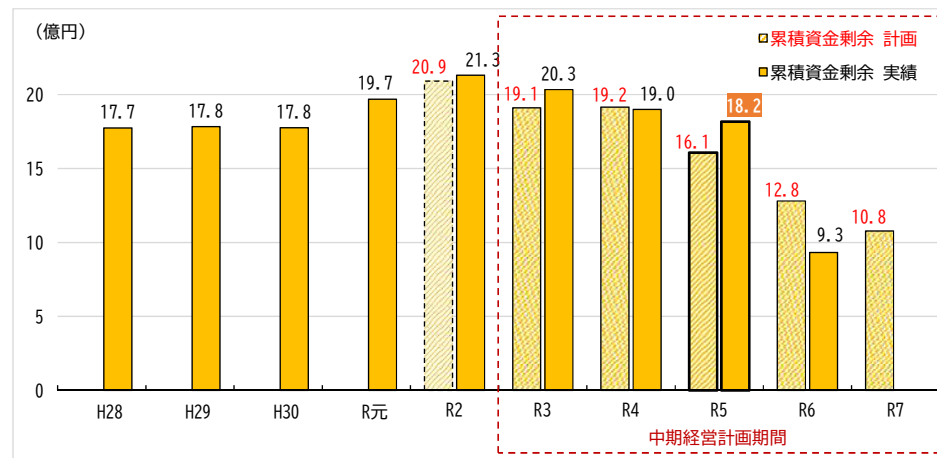
年度		R3	R4	R5					
項目		決算	決算	計画	予算	決算	前年度比	計画比	予算比
		(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(e)-(b)	(e)-(c)	(e)-(d)
収益的収支	収益的收入 ①	1,970	1,964	1,983	1,999	1,990	26	7	▲ 9
	料金収入	1,739	1,730	1,696	1,722	1,747	17	51	25
	その他	231	234	287	277	243	9	▲ 44	▲ 34
	収益の支出 ②	1,463	1,644	1,735	1,909	1,509	▲ 135	▲ 226	▲ 400
	人件費	180	229	240	247	181	▲ 48	▲ 59	▲ 66
	維持管理費	297	312	351	369	308	▲ 4	▲ 43	▲ 61
	減価償却費等	669	684	707	709	697	13	▲ 10	▲ 12
	企業債利息	23	20	24	22	18	▲ 2	▲ 6	▲ 4
	その他	294	399	413	562	305	▲ 94	▲ 108	▲ 257
	収支差引 ③=①-②	506	320	249	90	482	162	233	392
資本的収支	資本的收入 ④	65	49	310	1,063	249	200	▲ 61	▲ 814
	企業債	23	18	140	798	155	137	15	▲ 643
	国庫補助金	43	28	42	50	49	21	7	▲ 1
	その他	0	3	128	215	45	42	▲ 83	▲ 170
	資本的支出 ⑤	875	976	1,356	1,957	1,365	389	9	▲ 592
	整備費	679	731	1,049	1,508	1,105	374	56	▲ 403
	企業債償還金	160	140	143	144	143	3	0	▲ 1
	その他	36	105	164	305	117	12	▲ 47	▲ 188
	収支差引 ⑥=④-⑤	▲ 810	▲ 927	▲ 1,046	▲ 894	▲ 1,116	▲ 189	▲ 70	▲ 222
補填財源 ⑦		713	794	739	594	1,033	239	294	439
単年度資金収支 ⑧=⑥+⑦		▲ 97	▲ 134	▲ 308	▲ 300	▲ 83	51	225	217
累積資金剰余		2,034	1,900	1,607	1,600	1,817	▲ 83	210	217
企業債残高		1,536	1,414	1,808	2,211	1,426	12	▲ 382	▲ 785

② 推移表（実績のうち、H28～R5は決算額を、R6は予算額を示す）

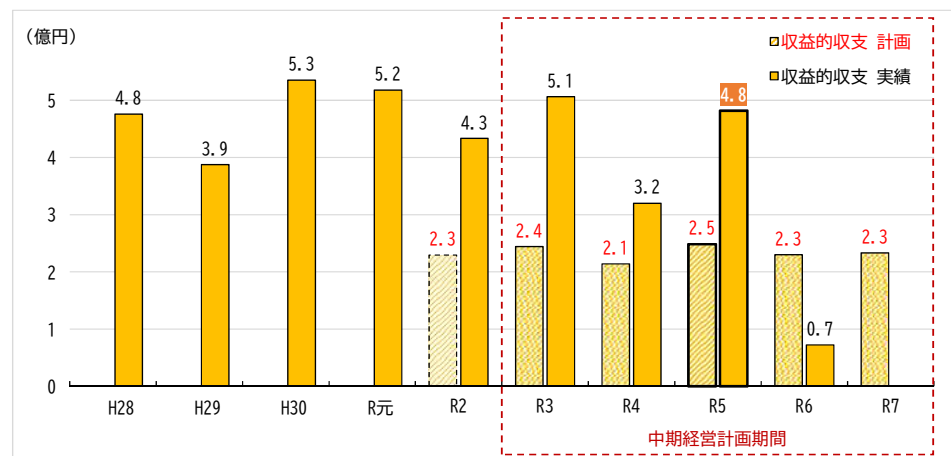
【料金収入・有収水量の推移】



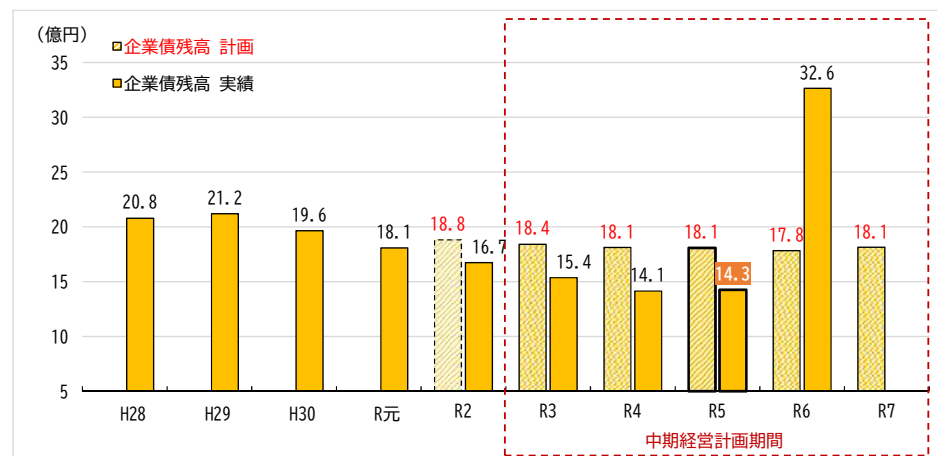
【累積資金剰余の推移】



【収益的収支の推移】



【企業債残高の推移】



③ 総論

料金収入は計画値と比べて増加し、また、人件費や維持管理費等が減少したため、収益的収支は計画値を上回った。
 整備費が計画値に比べて増加したが、減価償却費や資産減耗費等で構成する補填財源も同様であったため、累積資金剰余は計画値を上回った。
 令和4年度末時点で企業債残高が計画値を下回っていたため、令和5年度の企業債発行額は増加したが、同年度末の企業債残高は計画値を下回った。

(5) 下水道事業

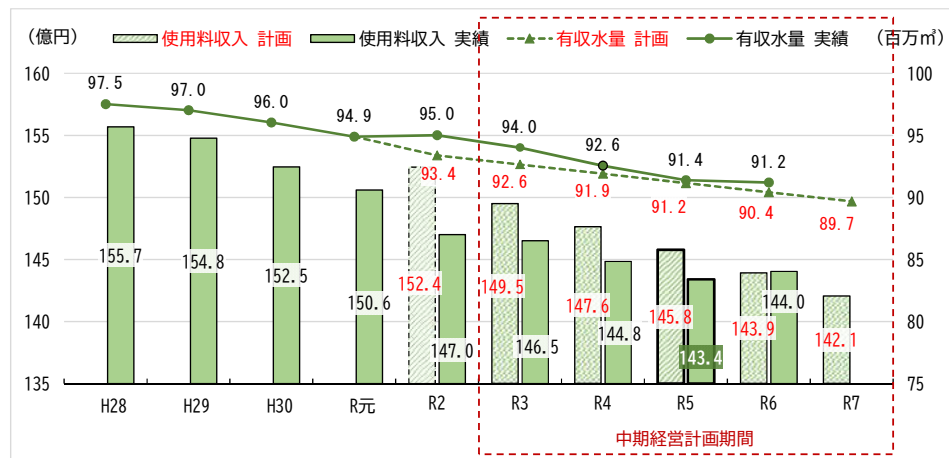
① 総括表

(単位：百万円)

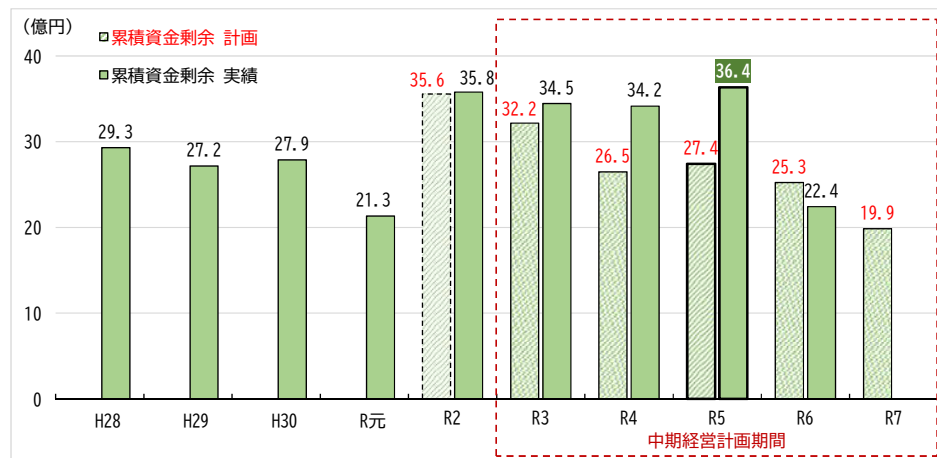
年度		R3	R4	R5					
項目		決算	決算	計画	予算	決算	前年度比	計画比	予算比
		(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(e)-(b)	(e)-(c)	(e)-(d)
収益的収支	収益的收入 ①	27,258	27,091	27,326	27,467	26,749	▲ 342	▲ 577	▲ 718
	下水道使用料収入	14,650	14,484	14,578	14,525	14,340	▲ 144	▲ 238	▲ 185
	一般会計繰入金	5,781	5,851	6,009	6,082	5,681	▲ 170	▲ 328	▲ 401
	その他	6,828	6,756	6,739	6,860	6,728	▲ 28	▲ 11	▲ 132
	収益的支出 ②	26,566	26,423	27,025	27,725	26,084	▲ 339	▲ 941	▲ 1,641
	人件費	870	866	1,102	1,062	933	67	▲ 169	▲ 129
	維持管理費	5,925	6,221	6,416	7,296	6,292	71	▲ 124	▲ 1,004
	減価償却費等	16,992	16,718	16,354	16,346	16,091	▲ 627	▲ 263	▲ 255
	企業債利息	1,639	1,457	1,673	1,368	1,340	▲ 117	▲ 333	▲ 28
	その他	1,140	1,161	1,480	1,655	1,428	267	▲ 52	▲ 227
	収支差引 ③=①-②	692	668	302	▲ 258	665	▲ 3	363	923
資本的収支	資本的收入 ④	14,218	11,105	14,221	13,951	13,112	2,007	▲ 1,109	▲ 839
	企業債	7,114	4,621	6,348	6,451	5,965	1,344	▲ 383	▲ 486
	国庫補助金	4,936	4,667	4,945	4,864	4,778	111	▲ 167	▲ 86
	その他	2,167	1,817	2,928	2,636	2,369	552	▲ 559	▲ 267
	資本的支出 ⑤	24,334	23,851	25,058	24,517	23,191	▲ 660	▲ 1,867	▲ 1,326
	整備費	12,275	12,035	12,410	12,165	11,372	▲ 663	▲ 1,038	▲ 793
	企業債償還金	9,063	8,737	8,698	8,698	8,698	▲ 39	0	0
	その他	2,996	3,079	3,950	3,654	3,121	42	▲ 829	▲ 533
	収支差引 ⑥=④-⑤	▲ 10,117	▲ 12,746	▲ 10,837	▲ 10,566	▲ 10,078	2,668	759	488
補填財源 ⑦		9,983	12,716	10,930	10,053	10,297	▲ 2,419	▲ 633	244
単年度資金収支 ⑧=⑥+⑦		▲ 134	▲ 31	92	▲ 513	219	250	127	732
累積資金剰余		3,446	3,416	2,742	2,903	3,635	219	893	732
企業債残高		145,988	141,872	141,717	142,967	139,139	▲ 2,733	▲ 2,578	▲ 3,828

② 推移表（実績のうち、H28～R5は決算額を、R6は予算額を示す）

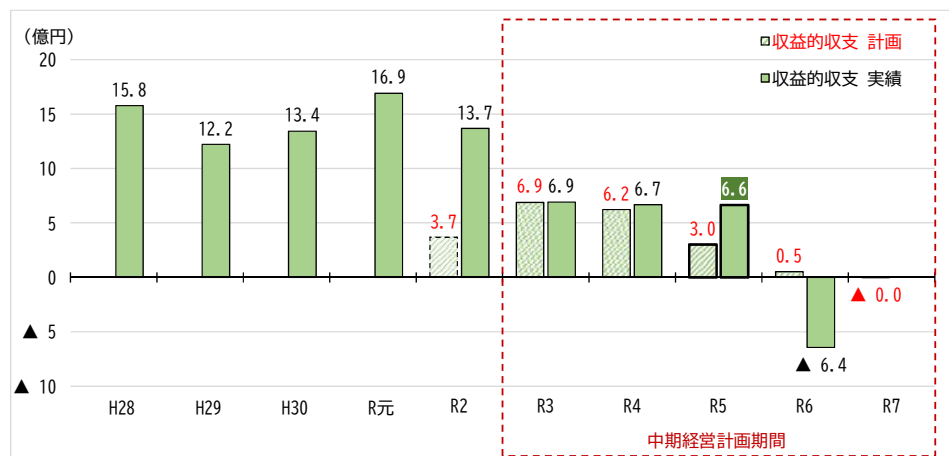
【使用料収入・有収水量の推移】



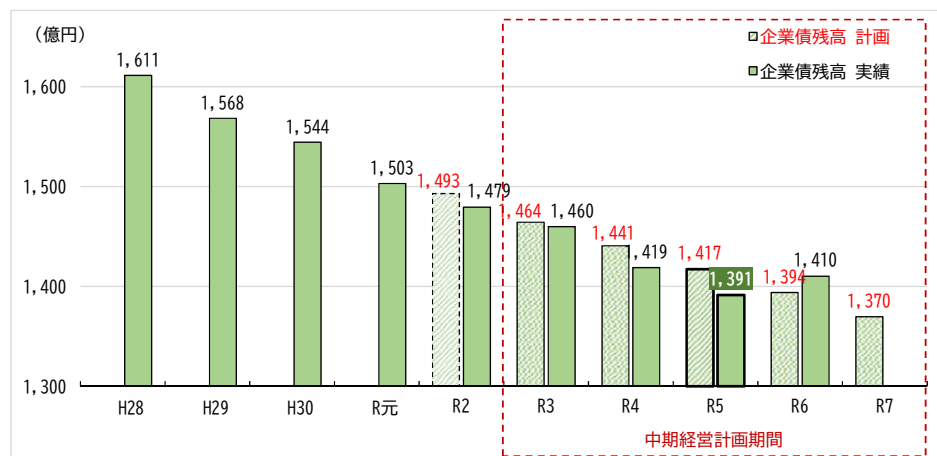
【累積資金剰余の推移】



【収益的収支の推移】



【企業債残高の推移】



③ 総論

使用料収入は計画値と比べて減少したが、人件費や維持管理費等も同様であったため、収益的収支は計画値を上回った。
 整備費が計画値に比べて減少し、あわせて企業債の発行額も減少させたが、累積資金剰余は計画値を上回った。
 企業債発行額が計画値と比べて減少したため、令和5年度末の企業債残高は計画値を下回った。

4 計画値と実績値の乖離している主な事業（令和3～5年度）

（1）主な事業【水色部：水道事業関連、緑色部：下水道事業関連】

項目	計画値	実績値	達成率	要因等
1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新				
導送水管更新	5.1km	2.9km	57%	労務単価や資材価格の高騰による工事費の増大に伴い、業務量の調整を行った結果、施工延長が計画値を下回ったもの。限られた予算の中、配水管更新を優先して実施してきたところ。
配水管更新	113.0km	94.5km	84%	
下水道管渠の改築・更新	69.0km	34.6km	50%	労務単価や資材価格の高騰による工事費の増大や、腐食が進行した圧送管の改築・更新を優先して実施したため、施工延長が計画値を下回ったもの。引き続き、国の交付金を最大限活用しながら、腐食リスクの高い路線を中心に改築・更新を進めていく。
1-1-2 上下水道施設の規模の適正化				
配水池の統廃合（黒川） 【配水管整備】	0.3km	0.0km	0%	基本設計及び実施設計に時間を要し、整備工事着手に遅れが生じたもの。なお、令和5年度中に配水管整備 L=0.2km に着手済み。
1-3-1 上下水道施設の耐震化				
重要な15ポンプ場の耐震化率	60.0%	46.7%	78%	入札不調により遅れが生じたもの。なお、令和6年7月に工事契約済み。
1-3-2 バックアップ機能の強化				
八重洲分岐～城野分岐送水管2条化 【送水管整備】	1.0km	0.2km	20%	都市計画道路に併せて整備を行うこととしており、道路工事の進捗によるもの。
2-1-1 水源林の保全				
市民参加人数	1,080人	29人	3%	新型コロナウイルスの影響により事業が中止されたことや、植樹や草刈への水源地域外からの参加者募集が中止されたことに伴い、市民参加人数が減少したもの。

(2) 財政状況（令和3～5年度）

① 水道事業

（百万円、税込）

	令和3～5年度		計画比	備考
	計画値 ①	決算値 ②	③=②-①	
収益的収入	60,033	58,513	▲1,520	
うち、料金収入（原水除く）	46,078	45,486	▲592	
うち、長期前受金戻入	3,918	3,697	▲221	
うち、受託収益	1,098	554	▲544	
収益的支出	58,136	56,227	▲1,909	
うち、人件費	8,100	6,924	▲1,176	
うち、浄化費用	2,943	3,186	243	
うち、維持管理費	9,591	9,206	▲385	
うち、一般管理費	1,338	977	▲361	
うち、減価償却費等	24,579	25,415	836	
うち、受託費	909	449	▲460	
収支差引	1,897	2,285	388	
資本的収入	14,187	12,603	▲1,584	
うち、企業債	9,790	9,836	46	R6 繰越額：3,432
うち、工事負担金	2,091	303	▲1,788	R6 繰越額：81
資本的支出	40,275	37,065	▲3,210	
うち、配水管改良費	14,992	15,800	808	R6 繰越額：4,310
うち、導送水施設整備費	2,203	1,669	▲534	R6 繰越額：409
うち、送配水施設整備費	1,649	1,033	▲616	R6 繰越額：315
うち、浄水場整備費	4,395	3,684	▲711	R6 繰越額：1,479
うち、負担金工事費	1,920	290	▲1,630	R6 繰越額：81
収支差引	▲26,088	▲24,463	1,625	
補填財源	23,674	22,991	▲683	
資金収支	▲2,414	▲1,472	942	基金の取崩し1,991を除く
企業債残高（令和5年度末）	59,380	58,221	▲1,159	

※表中の数字は四捨五入による端数調整をしていないため、内訳と合計などは必ずしも一致しない。

② 水道用水供給事業

(百万円、税込)

	令和3～5年度		計画比	備考
	計画値 ①	決算値 ②	③=②-①	
収益的収入	2,714	2,549	▲165	
うち、料金収入	2,364	2,260	▲104	
うち、受託収益	60	0	▲60	
収益的支出	2,478	2,365	▲113	
うち、人件費	186	170	▲16	
うち、浄化費用	233	314	81	
うち、維持管理費	652	565	▲87	
うち、受託費	60	0	▲60	
収支差引	236	184	▲52	
資本的収入	60	15	▲45	
うち、企業債	0	15	15	R6 繰越額：8
うち、工事負担金	60	0	▲60	R6 繰越額：19
資本的支出	711	601	▲110	
うち、浄水場整備費	76	33	▲43	R6 繰越額：22
うち、負担金工事費	60	0	▲60	R6 繰越額：19
収支差引	▲651	▲586	65	
補填財源	895	815	▲80	
資金収支	244	229	▲15	
企業債残高（令和5年度末）	3,140	3,155	15	

※表中の数字は四捨五入による端数調整をしていないため、内訳と合計などは必ずしも一致しない。

③ 工業用水道事業

(百万円、税込)

	令和3～5年度		計画比	備考
	計画値 ①	決算値 ②	③=②-①	
収益的収入	5,934	5,924	▲10	
うち、料金収入	5,082	5,216	134	
うち、受託収益	151	3	▲148	
収益的支出	5,228	4,616	▲612	
うち、人件費	720	590	▲130	
うち、浄化費用	870	815	▲55	
うち、維持管理費	1,069	917	▲152	
うち、受託費	153	2	▲151	
収支差引	706	1,308	602	
資本的収入	866	363	▲503	
うち、企業債	370	196	▲174	R6 繰越額：500
うち、国庫補助金	113	120	7	R6 繰越額：25
うち、工事負担金	384	47	▲337	
資本的支出	3,482	3,216	▲266	
うち、固定資産購入費	158	210	52	
うち、施設費	1,157	526	▲631	R6 繰越額：341
うち、改築事業費	1,296	1,971	675	R6 繰越額：658
うち、負担金工事費	381	49	▲332	
収支差引	▲2,616	▲2,853	▲237	
補填財源	2,133	2,540	407	
資金収支	▲484	▲314	170	
企業債残高（令和5年度末）	1,808	1,426	▲382	

※表中の数字は四捨五入による端数調整をしていないため、内訳と合計などは必ずしも一致しない。

④ 下水道事業

(百万円、税込)

	令和3～5年度		計画比	備考
	計画値 ①	決算値 ②	③=②-①	
収益的収入	82,974	81,098	▲1,876	
うち、下水道使用料収入	44,292	43,474	▲818	
うち、雨水処理負担金	17,865	16,767	▲1,098	
収益的支出	81,361	79,073	▲2,288	
うち、人件費	3,306	2,669	▲637	
うち、維持管理費	19,250	18,438	▲812	
うち、支払利息等	5,266	4,500	▲766	
収支差引	1,614	2,025	411	
資本的収入	41,094	38,435	▲2,659	
うち、企業債	18,920	17,700	▲1,220	R6 繰越額：3,694
うち、国庫補助金	14,774	14,381	▲393	R6 繰越額：2,851
うち、工事負担金	1,129	71	▲1,058	R6 繰越額：10
資本的支出	75,432	71,376	▲4,056	
うち、建設事業費	27,732	26,898	▲834	R6 繰越額：5,452
うち、施設改良費	9,270	8,784	▲486	R6 繰越額：1,790
うち、負担金工事費	2,397	153	▲2,244	R6 繰越額：12
収支差引	▲34,338	▲32,941	1,397	
補填財源	33,525	32,996	▲529	
資金収支	▲815	54	869	
企業債残高（令和5年度末）	141,717	139,139	▲2,578	

※表中の数字は四捨五入による端数調整をしていないため、内訳と合計などは必ずしも一致しない。

上下水道局 X方針の概要

	A領域	B領域	C領域
局全体	(1)上下水道事業の経営状況の理解促進 ・広報紙やSNS等を活用した情報発信 ・経営状況を示す文書配布や施設見学の実施		(1)持続可能な上下水道事業の構築（経営環境の変化への対応） ・水道事業の民間活用の研究 ・下水道事業のウォーターPPP導入の準備 ・今後の上下水道事業（運営や財務等）についての検討
DXの推進	(2)kintoneを利用した電子契約書管理業務軽減 ・kintoneアプリの作成 ・マニュアルの整備と周知 (3)モバイル端末の活用による業務負荷の軽減 ・チーム・ズーム等を活用し、オンライン会議やテレワークの試験的な実施	(4)事業者から報告される下水水質測定データの活用 ・水質データベースの作成 ・データに基づいた行政指導の実施	
施設の強靱化		(1)上下水道施設（特に管路）の老朽化への対応 ・効率的・計画的な施設更新 ・中長期的視点で収入確保策の検討等 (2)自然災害への備えと対応 ・老朽化対策・耐震化の推進、バックアップ機能の確立 ・重点整備地区の浸水対策推進など	
外郭団体		(3)㈱北九州ウォーターサービス(KWS)の経営基盤強化 ・人材確保と育成の推進 ・本市との連携による周辺市町の業務受託の拡大 ・海外水ビジネス案件受注の推進	

局区X方針について(B・Cレベルの課題で一定の進捗があったもの)

局区	課題番号	課題の概要	取組みの進捗状況(令和6年10月30日時点)
上下 水道	B(1) B(2) C(1)	持続可能な上下水道事業の構築 ・収入減少と増大する施設更新需要の対応 ・地震等の災害に強い施設の構築 ・適正な事業量の検討と必要な財源の確保 ・ベテラン職員の退職に伴う技術・ノウハウの継承への取り組み ・民間事業者等との連携による効率的運営の推進	○現状と課題 ・計画的に水道管を更新してきたが、近年の物価高騰等に伴い、市が定めた更新基準年数(40～95年)を超えた管の更新が遅れつつある。 ・県内で一番安い料金体系を維持しながら、事業統合や広域化による収入の確保、施設規模や組織の見直し、民間活用による費用の削減など、様々な経営改善に取り組んできたが、水需要の低下に伴い料金収入及び累積資金剰余が減少している。 ・令和3年に策定した上下水道事業基本計画においても、令和9年度に資金不足を見込んでいる。 ○能登半島地震を踏まえた上下水道施設の強靱化への対応が必要である。 ・能登半島地震の状況を踏まえ、施設の耐震化(強靱化)が求められているが、他都市と比べ取り組みは遅れている。 ○これらの課題を踏まえ、次期中期計画(令和8～12年度)の策定に向け、専門的な視点や利用者からの意見を取り入れる市の付属機関となる審議会を設置し、必要な財源の確保や適正な事業量について、検討を進める予定である。